

# 学生のページ

## 海外に羽ばたく

### 第5回 女性も翔ける

きゅうばひろこ せき かつみ いしがきしげなお  
休場裕子・関 克己・石垣成直

海外に羽ばたくシリーズも第5回になりました。今回は、私、休場裕子が台湾まで取材に行ってきました。海外取材は学会誌でも『初』ではないでしょうか？今回は、今、まさに海外の仕事に携わっている方のお話をうかがい、その仕事場も紹介します。阿部さんは、私のノルウェー留学時代の大切な友だちの一人です。

阿部玲子 氏 Reiko ABE



1963年8月  
1987年3月  
1989年3月  
1989年4月  
1995年8月～97年8月  
1997年1月～4月, 9月～12月  
  
1998年1月～  
1998年9月～  
2000年4月～

山口県生まれ  
山口大学工学部建設工学科卒  
神戸大学大学院土木工学専攻修了  
(株)鴻池組入社  
ノルウェー工科大学留学 水力発電工学修了  
ノルウェーにて現場研修(地下発電, 地下鉄工事,  
North Cape海底トンネル工事等)  
(株)鴻池組 土木本部 土木設計部構造設計課  
同 技術部第一グループ  
台湾省台湾高鉄C210工区  
廻龍・林口トンネル工事工務主任

台湾に入って、9か月ほどですが、だいぶ慣れてきましたか？今日は、留学時代も含めて、海外経験に関するお話を聞かせてください。また、何かと注目されがちな女性という面でのお話もお願いします。

では、まず新しい台湾のお話から。

公務主任というお仕事ですが、どのような仕事をされていますか？

主に、窓口の役目をしています。今回は、サブコントラクターとして参加していますので、当社とコントラクターである大林組・互助JVと発注者である台湾高鉄との連絡役をしています。しかし、国際プロジェクトであるために、British Standardに則っており、すべての文書が英語です。その翻訳や通訳にかなりの時間を取られているのが現状です。

私にとっては、海外勤務という経験はこれが初めてですし、また、現場事務所に本格的に出るのも初めてのことです。

以前から現場に出たいと思っていたんですか？

そうですね。入社以来ほとんどの期間は、大阪の本社の技術部に所属していました。最初の数年間は都市土木における開削工事の計測・解析等の業務が主でした。他には、業務とは直接関係はありませんでしたが、土木学会誌の編集委員や、大学教授の方々と共著で『地盤の科

学』(講談社ブルーバックス)を執筆したりしていました。現場経験の機会のないまま、月日が過ぎていったという感じですね。

やはり同じ海外でも、留学とは大違いですか？

まず、時間の流れが違います。留学とは違い自由になる時間が少ないので、現地と触れ合う時間もそれなりに制限されてしまいます。また、工事事務所として日本から私も含め11名来ているので、周りに日本人がいるという違いもありますね。ノルウェー留学時代は、陸の孤島のごとく日本人に会うことはほとんどなかったもので。

そうでしたね。でも、台湾は、かなり距離的にも物質的にも日本に近いような感覚がありますけど、台湾での生活は、どうですか？

そうですね。飛行機で2時間程度しかかからないのは、本当に“近い！”って実感を込めて言えますね。過去の歴史に起因するところもありますが、日本と似た部分や日本の製品もあふれるようにあります。なんと言っても台湾の食べ物おいしいというのが、いちばん嬉しい点ですよ。

それでも、いくら近いからと言っても、外国であるということを決して忘れてはいけないとは思っていますが。

仕事に追われている印象ですが、普段の一日を紹介してください。

台湾では、国際免許などで車を運転することができます。



稼動し始めた現場で、同僚の呉氏と

せん。現場事務所は、公共交通ではとても不便な場所にあるので、他の所員と共に、7時20分頃集合して、運転手さんに事務所まで連れて行ってもらいます。昼休みは、だいたい12時～13時半と長いですね。昼食も夕食も、事務所でコックさんが作ってくださいます。運転手さんの勤務時間もあるので、たいてい20時前後には事務所を出ます。

実質事務所にいられる時間が限られているので、いつも怒涛のように仕事をしている感じがしますね。よく家に持ち帰ってこなしたりもしています。

現場の責任者である、大村部長も所員の精神衛生上のことを気にしていらっしゃいましたが、そういった面で今の生活はどうですか？

なかなか友だちとゆっくりできないのが難点ですね。休みがほとんどないので、遊びに行くこともなかなかできません。もう少し時間があれば、ゆっくり本を読んだり、書き物をしたりしたいんですが…。今は、帰ってきてゆっくりお風呂に入るときがいちばんリラックスできる時です。だから、職員の部屋探しは、自分のいちばんの要求事項である、“お風呂のきれいさ”と、Securityがしっかりしていること、かつ手ごろな値段であること、事務所・現場へのアクセスなどを考慮して、かなり苦労しました。

海外での家探して本当に大変ですよ。システムもわからないですし、口コミが最大の情報源という場合も少なくない。

そうです。特に、今回は1軒だけ見つければいいわけではないですから。たまたま、大きなマンションで数部屋の空きが見つかったのですが、それぞれ別のオーナーに交渉しなければなりません。それに、やっぱり大家さんも言葉の問題もあって、外国人に貸すのはちゅうちょしてしまいますよね。家だけでなく、海外で生活するというのは、いろいろな習慣、慣習と折り合いをつけていくことですね。

でも、そういう苦労も海外での生活の醍醐味の一つですよ。

そう思わないとやっていられないという意味でも。その分、たくましくなりますよ。

では、今いちばんの不満といえば？

自由になる時間がないこと！（笑）

これまでの海外経験で活きていることはどういうことでしょうか。

阿部さんの海外経験は、“2年半のノルウェーでの留学と工事現場研修だけ”に等しい状況ですが、どういう経験が活きていますか？

まずは、英語でしょうね。学生時代を含め、留学初期までは、英語は本当に苦手でした。留学するためのTOEFLをクリアするのに猛特訓を受ける必要があったほどです。英語が苦手だったために作ったエピソードも…。今は、事務所の日本人技術スタッフの英語を背負っている感じですし、そもそも現場経験のほとんどない私がこの現場に呼ばれたのは、トンネルを専門にしていたこともあるでしょうが、英語を買われたのが最大の要因のようです。

そして、どこの国の人間が交渉相手であろうと、動じない図太さを身につけましたね。ノルウェーではインタ



ノルウェー・North Cape 海底トンネル工事現場（97年10月）

ーナショナルクラスに属していたので、計 20 か国から、人種も宗教も異なった人間が集まっていました。彼らとグループを組んで模擬プロジェクトを作ったりした経験が活きているように思います。

それから、自分が日本人であるというより、アジア人であるという気持ちをもてたのも留学経験によるところが大きいです。ですから、台湾人と仕事をしていても「アジア人同士だから」という親近感があります。これは、仕事の上では、プラスに働いていると思います。まあ、その態度のせいかな、「あなた日本語うまいですね」なんて言われることもありますけど。

私は、ノルウェーでのとても言えないようなエピソードや苦勞を知っているだけに、失礼ながら、本当に成長したと感心してしまいます。

留学が大きな転機になったそうですが、

7 年間技術部にいて、同期の人々が現場に配属されていくなか、「このままでいいのだろうか?」と考えるようになりました。建設業界では、女性であることは、やはり仕事をしていく上でハンデになります。だからこそ、この世界で生き残っていくために、プラス が欲しかったのです。私は、留学という道を選びました。留学先の大学院では、地下開発の研究室で学びました。いつかは、日本のトンネルで仕事をしようと狙っていたのですが、いきなり海外勤務になるとは思いませんでしたよ(笑)。

ノルウェーの現場に行くのに、日本から仕入れたカ

ップ麺とかを持って行っていたのが、印象的なんですけど...

あのころは、現場のコックさんが、日本人の私に気を遣って、ご飯を炊いてくれたりしていたんですが、それにバターと塩味がついていたり、まったく粘り気はないのに、すごく軟らかかったり...。そういうのが続くのが結構つらかったんですね。食べ物は重要です!

でも、あの場所で生きていけたという妙な自信がありませんか?

ノルウェーでのあの生活はしんどい部分もありましたが、好きでした。日本とは全く時間の流れ方や時間に対する価値観が違った生き方だったように思います。ノルウェーの北部では、気候の関係で木も生えず、苔と岩ばかりの風景が延々と広がっています。ふと気付くと、人間は自分だけで、トナカイが胡散臭そうに私を眺めているということもありました。吹雪が続くと一歩も外に出られず、3 日間も誰とも口をきかないこともありました。そういう経験があったからこそ、何か困難に直面しても、「あの時に比べれば。」と考えるくせがつかしましたね。

“手つかずの自然” というよりは、“手のつけようのない自然” のあふれる国で過ごしていましたから。

ノルウェーで後半の現場研修をするときに、思っていたのですが、その研修の契約が難航していたのに、粘り強く交渉して希望どおり実現しましたよね。

それは、私自身のいい面でも悪い面でもあるように思

## 林口・迴籠トンネル工事現場紹介

林口 (Linkou) トンネルと迴籠 (Hueirung) トンネルは、台北 高雄間の 345 km を結ぶ台湾高速鉄道の C210 工区の一部です。阿部さんの所属する鴻池組は、C210 工区を担当する大林・互助 JV のサブコントラクターとして参加しています。両トンネルは高架橋を挟んで隣接しており、林口トンネルの北口から 1400 m 程度 (トンネル延長の 4 分の 1 程度) と迴籠トンネル全長 (トンネル延長 1930 m) を担当しています。2000 年 7 月に工事事務所が開設され、10 月に着工しています。2001 年 2 月末ごろにトンネル部分の掘削が始まる予定です。迴籠トンネルが台北寄りに位置しており、台北市内から車で 30 分程度の場所にあります。

2004 年 6 月の工事完了を目指して、2000 年 10 月より着工し、2001 年 2 月末よりトンネル掘削が始まる予定です。付近は急峻な地形を有しており、軟質土の低い山が続いています。迴籠トンネルの一部を除いて、かぶりが少ないために、発破を使わず、アンブレラ工法が使われる予定です。

(鴻池組 林口・迴籠トンネル工事事務所 大村修一部長のお話より)



正面が迴籠トンネルの南口となる

います。要するに『猪突猛進』型なので、思い立ったら突き進んでしまいます。その当時は、鴻池組も海外でのトンネルプロジェクトを持っていなかったもので、これを逃すと「海外のトンネル現場を経験できるチャンスはない!」と思って、何とかこのチャンスを手に入れようと突き進んでしまいました。

阿部さんのノルウェーでの研修中に、North Cape 海底トンネルの現場も見せていただきましたが、台湾の工事現場は、日本の工事現場に似ていますよね、安全標識とか・・・

そうですね。ノルウェーの現場を回っていたときは、本当にどこにもほとんど安全標識や安全通路なんてないんです。雇用の形態の違いもありますが、そういう安全に関することは、完全に個人の責任であったようです。台湾はまだ始まったばかりですけど、写真にも写っていますが、日本と同じような表示がありますね。見かけは確かに日本の現場に似ていますが、現場における安全に対する意識はまだまだのようです。

今回のサブタイトルにもつけましたが、女性という面でのお話をお願いします。

どこでも、女性であるというだけで珍しがられ、それに対して多くの質問を受けていると思いますけど、どうですか？

そうですね。台湾でもなかなか女性の職員には出会いません。周りでは、「鴻池組さんは、女性に海外勤務させるなんて大胆ですね」と言われているらしいですよ。また、日本でもいまだにそうですが、台湾でも完成前のトンネルに女性が入ることを嫌う習慣があるそうです。今回、大村部長には、「阿部は入れる」と主張していただいているのですが、私だけでなく、他の女性にも門戸を開くことに意味があると思います。女性職員の採用等も含めてのことですが。

これからの話なので、どうなるかはわかりませんが、今度見学に来てくれたら、是非、坑内を案内したいんです。これが、第一歩になればと思っています。

周りから入ってくる話から判断すると、悪い例は、「だから女性は・・・」と全体の責任のように言われ、良い場合は、「あいつは特別」と個人が特殊な人のような扱いを受けているように、私は思います。そもそも、まだまだ男性とは母集団の大きさが違うので、単純な比較なんてできないと思うんですが。

そういうこともあって、意地を張って頑張ってきたというのがありますね。でも、これが私のスタンスなので、また同じ場面に出遭っても、こういう道に進んできたと思います。そういう面では少しも後悔はしていません。

自分のやりたいことに向かっているという意識はあります。そして今後、土木に進んでくる女性に、少しでも参考になればとも思っています。

出身校などで、何度かそういうテーマでの講演をされた経験があるそうですが。

ええ。私が学生のときは、学部でも大学院でも土木の女子学生はほんの数人でした。今は、10人前後いる学年もいるらしく、増えていますね。社会に出ようとするときに初めて自分が女性であることを念頭に置いての選択を迫られるんです。その前に、何か参考になることを学生に話してほしいと依頼を受けました。

ある時、講演の後、学生さんに「就職も配属も思い通りになっている阿部さんが羨ましいです」と言われたことがあります。“羨ましい”という言葉は、すでに諦めている感があり、私は好きではありません。その学生さんも土木を学んで、このフィールドへの一步を踏み出しているのですから、いろいろな可能性が大いにあるのです。確かに、この土木業界は女性が入り込むにはハードルがたくさんあるのも事実ですが、10年経ったとき、彼女たちがもっと前に進んでいることは十分にありえると信じています。

でも女性で得してることも、たくさんありますよね。実際、人数が少ないので、とても目立ちますし。

女性であることでハンデを背負う場面も多々ある反面、利用できる利点は、目一杯利用させてもらっています。すぐに周りの方に覚えていただけるので、人脈は広がりますよ。打ち合わせやアポイントメントを取る際は、かなり有利です。ただし、苦情窓口になることもありますが。

最後になりますが、学生へのメッセージをお願いします。

これからは、英語は特技ではなく、仕事をするためのごく当たり前の手段になると思います。学生時代がいちばんいい研修期間ですので、是非身につけてください。海外では、コミュニケーションが欠けていると仕事になりません。人とのつながりは大切にしてください。私自身がこの業界ではまだまだ若輩もので、皆さんの“道しるべ”になるようなことはなかなかいえません。ただ何事に関しても、「なんとかなる」のではなく、「なんとかする」という気持ちが、私の心のそこにあります。

特に女子学生には？

私は、ゼネコン総合職の土木技術者としては、最初の女性であったと思います。そのために意地を張りすぎていた部分もあります。仕事を中心に頑張ってきた部分も多々ありました。あの時点では、そういう選択しかなか

ったと思っています。でも、これからの方々には、仕事だけでなく、家庭を作ることも念頭において、やってもらいたいと思います。今後、働き方も多様化してきますし、どのように働くかというのは、女性にも男性にも選択できるようになっていくと期待しています。

お話にあったように、阿部さんも土木学会誌の編集委員を経験されています。その最後の仕事として、学会誌の96年9月号の別冊「土木と女性技術者」に『お父さんへ』という文章を寄せています。私は、それを読むたびに、涙が出てきます。自分が女性であるために少しの障害に出遭うと、玲子さんはどれだけの苦勞をしてきたのだろうかと考えてしまいます。

それでも、明るく頑張り続ける彼女を見ていると、私も土木の世界に一石を投じたくなくなってきます。

この記事に対する感想、ご意見は下記までお寄せください  
(文責 休場裕子)。

#### 編集

石垣成直 京都大学大学院(学生会員)  
休場裕子 東京工業大学大学院(学生会員)  
関 克己 中央大学大学院(学生会員)  
E-mail: edi@jsce.or.jp

### 学生編集委員を募集します 私たちと一緒に学会誌を作りませんか?

仕事：基本的に学生のページを担当  
編集委員会への出席(原則月1回, 東京)  
単発取材記事もあり  
任期：決まり次第~1年以上2年以内  
資格：国内在住の大学生・大学院生であること  
土木学会会員であること  
報酬：なし(旅費・取材必要経費等は学会で負担します)  
応募方法：簡単な履歴および自己PRをA4用紙1枚程度にまとめ、下記まで郵送してください。  
指導教官の承認の一文を添えてください。  
募集人数：1~2名  
応募締切：2001年3月31日  
応募先：〒164-0004 新宿区四ツ谷1丁目無番地  
(社)土木学会 編集課 中村宛

-お知らせ-  
4月号「学生のページ“海外に羽ばたく”」はお休みします。  
ご了承下さい。

### 工事事務所の一日体験

取材の日、工事事務所で一日お世話になりました。この日は10時から、週に一度Audit(監査)のある日でした。これは、台湾高鉄の方が、進捗状況を主にドキュメントでチェックします。必要なものがしっかりと文書化され、かつ把握されているかに主眼が置かれているようです。

始まるまでの1時間程度は、怒涛のごとく資料の準備が行われていたため、いきなり手伝ってしまいました。

Auditを含めすべての会議や文書は、基本的に英語で行われるはずなのですが、白熱してきた台湾高鉄の方が、中国語で話し始め、通訳が必要になってしまいました。

台湾高鉄も走り出したばかりで、なかなか軌道に乗るのも難しいように思えました。

皆さんと同様に、事務所のコックさんが作ってくださった昼食をいただいた後、午後からあたり一帯が停電してしまいました。結局、夕方になっても復活しませんでした。その時間を使って、現場・JVの事務所に連れて行っていただきました。JVの何方名かに、阿部さんに関するコメントを求めたのですが、笑ってごまかされてしまいました。何をしてるんでしょう。阿部さん!

停電は次の朝には復活していたそうです。

温かく迎えてくださった林口・迴龍トンネル工事事務所の皆様へ感謝します。



Auditの様子